



野々市町に合ったバス停の空間づくり

テーマ選択理由

- ・私たちが普段使っているバス停は不便である
- ・野々市町の風土が感じられない
- ・建築の分野が生かすことができる

利用者の声...

既存のバス停

- ・雨がしのげない
- ・ベンチがない
- ・夜が暗い



- ・冬の風が寒い
- ・雨が防げない
- ・夜のバス停が暗い

チームの計画・方針

野々市町らしさ

↓
椿・じよんがら節・和風

最終決定案

利点1

トップライト

- ・空間、電気の力と使わず採光を取り入れることができる。
- ・省エネに繋がる。(電気代節約)
- ・UVカットガラスを用い紫外線を遮断することができる。

利点2

ライトアップ

- ・顧客の要請より取り入れられた。
- ・バス停を外から照らし、バス停を目立たせる効果をもつ。

屋根

- ・バスに乗るギリギリまで雨、雪に濡れずにすむ事が出来る
- ・野々市町の最大積雪量に耐えられる勾配を持ち雪の落下を防ぐ。
- ・屋根の表面を波打たせる事によって雪解け促進効果を備えた。

利点3

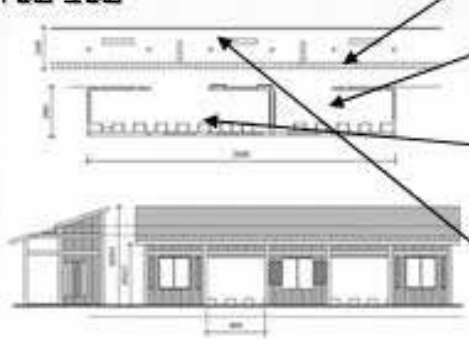
野々市町らしさ

- ・畳を木造とし、和の感じを表現。
- ・バス停内の床に畳の模様を入れる。
- ・バス停の天井に畳の柄を取り入れる。

利点4

内部設備の説明

平面図・立面図



・降着者用点字プレートについて

降着者の方が安心してバスに乗れるように乗り場付近にも点字プレートを設けた。

・分煙システムについて

喫煙者と非喫煙者を分けることで、バスの待ち時間を快適に過ごせることを目指した。

・椅子について

個々を独立させることで、他を気にすることなくバスを待つ事が出来る。

・花壇について

野々市町の町花である椿を取り入れることで、町との一体感を図った。

金沢工業大学
110-8202 工学部2F

7のムネナカ:野々市町に合ったバス停の空間づくり

クラス番号:AP11

チーム番号:2

チーム名:110110

チームメンバー: 渡辺 真、村上 大祐、大塚 悠、川崎 悠、高橋 悠、中田 悠

担当教員名: 古川 隆雄、伊藤 隆雄